

厚生労働科学研究費補助金（移植医療基盤整備研究事業）
分担研究報告書

小児脳死下臓器提供における家族ケアに関する研究

研究分担者 別所 晶子 埼玉医科大学 医学部 助教

研究要旨:小児脳死下臓器提供において、家族の意思決定のフェーズ、臓器摘出プロセスが進む間のフェーズ、全てのプロセスが終了した後の中長期的悲嘆のフェーズの3つのプロセスにおける家族ケアについて米国の専門家にインタビューし、より良い家族ケアの在り方を模索することを目的とした。方法は機縁法であり、親族の知人・知人の友人を対象者とした。質問項目を検討し、家族ケアの具体的な実際について2人の医師にインタビューした。その結果、PICUで脳死と判断されると、OPOという機関が入れ替わるため、家族のそばに一貫して付き添う専門職はいなかった。

A. 研究目的

小児脳死下臓器提供において、①家族の意思決定のフェーズ ②臓器摘出プロセスが進む間のフェーズ ③プロセスが終了した後の中長期的悲嘆のフェーズ、の3つフェーズで家族を支える仕組みを明らかにする。そのために、小児脳死下臓器提供の先進国である米国の専門家にインタビューを行い、より良い家族ケアの在り方を模索する。

B. 研究方法

機縁法。親族の知人、知人の友人を紹介してもらい、対象者としてzoomにてインタビュー調査を行う。それに先立ち、小児脳死下臓器提供における家族ケアについての文献研究を行い、インタビュー対象者を決定し、インタビューの質問項目を検討した。

（倫理面への配慮）

埼玉医科大学人に関する研究倫理委員会にて承認された。

C. 研究結果

殆どの子どもの死はPICUで起こり、必然的に脳死判定もPICUで行う。脳死判定は誰に許可を取る必要はない。脳死が確定すると、OPOという臓器移植ネットワークに連絡することが義務付けられている。そこからはOPOが引き継ぎ、家族が臓器提供を希望すれば医療面も含め全てOPOが行う。そのため、3つのフェーズで一貫して家族に寄り添う専門職はいなかった。

D. 考察

ICUからPICU, PICUからOPOと、場面が分断されており、必然的に家族ケアも分断されている。家族はそれぞれの場で医療スタッフと信頼関係を築いているはずである。ケアする人が分断され、関わるスタッフが次々と変わることで、家族はその度に不安を抱えることになるだろう。いくらチーム医療とはいえ、家族の不安に寄り添う専門職が必要ではないだろうか。

E. 結論

ICUに入院して直ぐに家族に関わり始め、PICUに移っても、家族の意思決定にも、臓器提供の一連のプロセスが進む間も、全てが終了して実施施設を退院した後も、一貫して家族に寄り添う専門職が必要ではないかと考える。

F. 健康危険情報

（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

G. 研究発表

1. 論文発表
特になし
2. 学会発表
特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

1. 特許取得
特になし
2. 実用新案登録
特になし
3. その他
特になし